

2年半ぶりに、台湾へ旅行しました。今回は一緒に教区報を作って来た旧広報部の人々との慰労を兼ねた旅でしたが、私自身は宮崎聖三一教会の総会を控え、またその週のうちに、宮崎で新しい伝道部の第1回目の部会を控えておりましたので、伝道部の課題図書として部員たちに読んでもらっている、リック・ウォレン著「5つの目的が教会を動かす」という本を旅行中に読んでいました。

400頁以上ある本を簡単に短い文章でまとめることはできません。また私自身もすべてを読みこなしているわけではありませんが、伝道とか宣教ということを考えるために、この本と教区の伝道部は取り組んでもらいたいし、集会室のテーブルの上にも1冊置いているので、手に取って考えていただきたいと思います。

1月20日、トランプ大統領の就任式がありましたが、今から8年前、オバマ大統領の就任式にお祈りをしたのが、この「5つの目的が教会を動かす」という本の著者リック・ウォレン牧師だったということをおきましよう。彼はアメリカ南バプテスト連盟の牧師で、2005年10月31日版の『US ニュース&ワールド・レポート』で、アメリカのトップ25のリーダーの1人に挙げられました。また、「米国で最も影響力のある霊的指導者」とも呼ばれるそうで、タイム誌は、2004年に影響を与えた15人のリーダーの1人としてウォレンを挙げています。そして、2005年に世界で影響を与えた100人の1人として彼は選ばれました。

この人が働いているカリフォルニアでは、海で波乗りをする、サーフィンというスポーツが今もさかんに行われている、というのが、この本の導入に書かれていました。そして、『教会指導者の仕事というのは、経験を積んだサーファーのようなもので、神の霊の波を見つけて、それに乗る。つまり、神が世界でどのように働いておられるかを見出して、神とともに働く努力をすることである。岸边からサーファーを眺めると、波をつかむのは簡単に見える。しかし実際はたいへん難しく、優れた技術とバランスを要する。同様に、成長という霊の波をつかむのも決してやさしくはない。それは願望や献身以上のもの、すなわち、洞察、忍耐、信仰、技術、そして何よりもバランスを要する。成長する教会を牧会することは、未経験者には簡単に見えても、特有の技術の習熟が要求されるのである。（中略）（彼の働いている）サドルバック教会は決して波を起こそうとはしない。それは神のなさることである。しかし、神が送っておられる波を見出そうと努めてきた。波に乗るために、ふさわしい道具を用いることやバランスをとることが重要であることを学んでいる。神が何か新しいことをされると感じるときは、消えゆく波から降りることも学んだ。驚いたことに、私たちが成長の波乗りにも熟練すればするほど、神はさらに波を送ってくださるのである。』とありました。

それでは、教会のあり方と、なすべきことは何なのか、神様は教会に何を求め、この世界に何をしようとしておられるのか、という本質的な問いが湧いてくるのですが、著者のリックさんは、それを、私たちがよく知っている、ふたつの聖句に見出しました。

『イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように

愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。』（マタイ 22 : 37~40）

『だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』（マタイ 28 : 19~20）

このふたつの聖句をもとに、リックさんが見出した教会の目的は次の5つだと言います。

目的1 『心を尽くして主を愛すること』

この目的を具体化したものが『礼拝』。私たちがどのようにして、心を尽くして神様を愛するのか。それは礼拝することによってである。イエス様は荒野の誘惑の最後にこんなことを旧約から引用して言われました。

『更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った。すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある。」（マタイ 4 : 8~10）神様には仕える（奉仕）よりも前に、拝む（礼拝）が先に来ていることに注意することが大切。神様を礼拝することは、義務より前に、神様への愛の表現であることを知っておくべきだ。

目的2 『自分のように隣人を愛すること』

このことを具体化したものが『奉仕』。教会は人々に奉仕するために存在する。奉仕とは人々の必要に応え、イエスの御名によって人々の傷をいやし、神の愛を示すことで、愛を持って人々に接するとき、彼らに奉仕しているのである、と説明されていました。

だから、教会で『聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ』（エフェソ 4 : 12）るようになるのです。

目的3 『行って弟子をつくること』

このことを『伝道』と呼んでいる。これが2番目の聖句に含まれる3つの要素の第1。教会は神の言葉を伝えるために存在する。私たちはキリストの使節であり、その使命は世界を福音化することである。

聖歌 403 番（いともかしこし）という歌の元の歌詞は「I love to tell the story」（私はその物語を話すことが大好きだ）と繰り返す、イエス様の栄光と愛の物語への私たちの関心の集中が大切なのではないか。（この段落は私小林が勝手に例をあげてみました）

もしあなたがガンの治療法を知っていたなら、多くのいのちを救うその情報を広く伝えるためには何でもするだろう。あなたは、それにまさる情報をすでに持っている。永遠のいのちの福音という最高のニュースである。

目的4 『バプテスマ（洗礼）を授けること』

私たちはクリスチャンとして、「信じる」だけでなく、「帰属する」ために召されている。ひとり気ままに生きるのではなく、キリストの家族という共同体に連なって生きるべきである。エフェソの信徒への

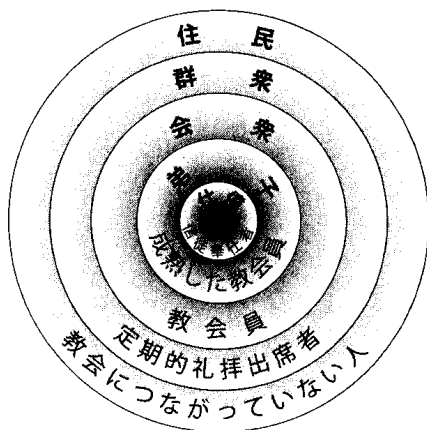
手紙2章19節のリビングバイブルの訳『あなたがたはもはや、神にとって見知らぬ外国人でも、天国に縁のないよそ者でもありません。神の家族の一員であり、神の国の市民なのです。すべてのクリスチャンと共に、神の一家を構成しているのです。』

目的5『従うように教えること』

この目的を表すことばとして「弟子訓練」というのが用いられる。教会は神の民を育て、教育するために存在する。弟子訓練は、人が思考、感情、行動において、よりキリストに似た者となることを手助けするプロセスである。このプロセスは、人が新しく生まれたときから始まり、残る生涯中続くものである。『このキリストを、わたしたちは宣べ伝えており、すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。』（コロサイ1：28）

『こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。』（エフェソ2：12～13）

献身度の五重の同心円



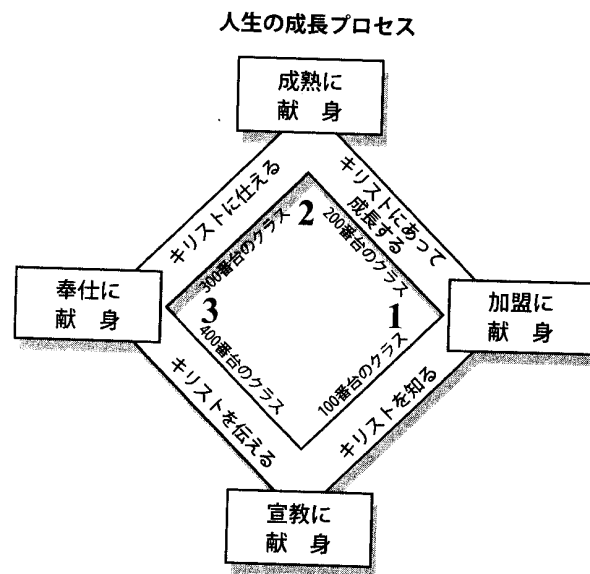
このような5つの目的のために、教会は、未だキリストの福音に触れていない人々を教会の礼拝に招き、洗礼を授け、奉仕の業をさせ、キリストの弟子として育て、仕僕として、伝道に送り出す、というプロセスをたどると言うのです。彼の教会は毎週1万人が来るそうです。そしてそれを同心円の図で区別しています。これは一番大きな同心円である（現在31万人いる）「住民」を招き、教会の礼拝に来させて「群衆」（現在の礼拝出席者毎週約1万人）にし、洗礼を受けると「会衆」（礼拝出席者の平均約5千人）と言って、教会員になる。その会衆に奉仕の業をさせて、「弟子」（礼拝出席者の平均3千5百人）ができる。その弟子の中から「仕僕」が約1500人となって教会の中心的奉仕者という構成になっている、ということです。

著者は大変鋭い指摘をしています。

『千人以上の名が名簿に載っていながら、礼拝には二百人足らずしか集まらない教会で話したことがある。そのような教会員を持つことにどんな価値があるのだろうか。もし、あなたの教会の教会員数が礼拝出席者より多いのなら、教会員の定義についてまじめに考えてみるべきである。』

教会員よりも礼拝出席者が多いほうが、まだ教会につながっていない伝道対象者を引きつけ、集めるのに効果がある。ある教会の伝道が効果的と言える良い基準は、「会衆」としての教会員に加えて、最低その25パーセントの「群衆」が出席していることである。教会員二百人なら、平均出席者は少なくとも二百五十人はいるべきである。もしそうでないなら、あなたの教会のほとんど誰も未信者を誘っていないことになる。』

また著者は人生の成長プロセスとして、野球のダイヤモンドを想定し1 塁目指して「人々をキリストに導き、教会に加盟するように導くクラス」。2 塁を想定し「霊的に成熟するよう導くクラス」。3 塁を目指して「奉仕に必要な熟練技術を身につけさせるクラス」。本塁を目指して「世界中にキリストを伝える働きに参加を募るクラス」などがあるそうです。



これを聖公会の信徒の定義と比べたら、聖公会の洗礼と堅信だけで信徒として成熟しているような体制とはちがい、新しい教会員を増やすための姿勢の違いに驚きます。また、聖公会でも

「教会の5要素」や「宣教の5指標」など似たような言葉もあるのですが、根拠が理解できません。

聖公会が大切にしてきた「教会の5要素」として、

- ケリユグマ＝み言葉に聴き、伝えること
- ディアコニア＝世界、社会の必要に応え仕えること
- マルトウリア＝生活の中で福音を具体的に証しすること
- レイトゥルギア＝祈り、礼拝すること
- コイノニア＝主にある交わり、共同体となること

これらが、2012年の日本聖公会宣教協議会「<宣教と牧会の十年>提言」に出てきていますが、それらは、羅列されているだけで、お互いの結び付きが私には理解できません。

宣教の5指標は、

- 1) 神の国のよき知らせを宣言すること
- 2) 新しい信徒を教え、洗礼を授け、養うこと
- 3) 愛の奉仕によって人々の必要に応答すること
- 4) 社会の不正な構造を改革し、あらゆる暴力に反対し、平和と和解を追及すること
- 5) 被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持再生するために努力すること。

リック・ウォレン牧師の説明の方が、重要な二つの聖句と密接につながっており、目指す目的も明確なので私には理解しやすいのですが、聖公会の上のふたつの5項目は、「そんな分野が教会にはある、」と言っているだけで、目的が分散して、どこに向かっているのか示されていないように感じるのです。

私は、宮崎聖三一教会が力を入れるべき活動は、先ず、「住民を群衆に」して、キリストを知らない人々に、礼拝を通し、また集会を通して、キリストを知ってもらいたい。そのためには、人々が、キリストを知るために教会に来るように企画することが先ず何より大切に思えるのです。私たちは、何をする事によって、この地の人々にキリストを知ってもらうことができるか、具体的な方法を考えましょう。